

平成 25 年度 上越市教育研究会図画工作・美術部活動報告

部長 廣川美知代（三郷小学校）

1 研究主題

「創る喜び 見る楽しみ 広がる世界」を実感させる造形活動

2 研究の概要

昨年度に引き続き、人や環境とのかかわりを重視し、自己の世界の広がりを実感できる造形活動の在り方について研修を進めてきた。講演による理論に基づいた研修とワークショップを取り入れた体験研修、また部員の実践交流等を通して、一層研修を深め、実践力の向上を図る。

3 研究の実際

(1) 美術教育講演会 11月13日(水) リージョンプラザ上越

演題：「かかわる つながる造形教育 ～子どものための美術鑑賞ワークショップ～」

講師：上越美術教育連盟会長 池上 秀敏 様（上越市立稲田小学校長）

「図画工作・美術科指導の原点は、形と色を通して、ものにかかわり、想像力を働かせ、自らの内面に思い描いたものをつくり、その完成と楽しさを味わわせることである。」この具現化を図る取組として、次の4点から実践事例を紹介いただいた。

- ①今ある美術環境への着目から、人・もの・ことへのかかわりにつなぐ取組：「校内にある美術作品から、見方・考え方を広げ、つながりを深める」
- ②身近に造形活動を引き寄せる取組：「造形体験コーナー等の設置」
- ③美術館との連携：「総合的な学習活動との関連」
- ④地域との連携：「文化祭におけるワークショップ」

図工・美術を指導したり推進したりする立場として、子どもたちの造形への関心を触発したり高めたりするための環境づくりは大切な役割と言える。また、美術館や地域との連携で学習の幅を広げてやることも重要である。池上先生のお話から、授業づくりだけでなく、学校環境の中に造形活動どう位置付けていくか、また地域との連携をどうつないでいくか、大きな視点での示唆をいただいた。

(2) 美術鑑賞ワークショップ

美術館で売っているような絵葉書や展覧会の案内状等を使ったカードゲームを体験した。トランプ遊びの要素を生かしたイメージ合わせゲーム等を行い、人とかかわりながら、造形的イメージを深めたり、広げたりしていく面白さを体験した。楽しみながら鑑賞指導のポイントを学んだ。



(3) 実践紹介交流

今回は、絵画に絞らず、平面、立体、造形遊びなど題材の幅を広げ各自が指導した子どもの作品、活動の写真、資料等を持ち寄り、互いに紹介し合った。できるだけたくさんの実践と出会い、意見交流ができるよう、ワールド・カフェ方式を取り入れ、グループを交代しながら発表し合った。

子どもの実態や生活と結びつけて題材を工夫したり、新たな表現方法を入れたり、それぞれが教材研究に力を入れて取り組んだ内容が紹介された。また、積極的に質問したり、意見を交換し合ったりし、互いの実践から学ぶと同時に、さらに深めていこうとする雰囲気が醸し出され、充実した時間となった。

4 今後の課題

- ものをつくる思いや見る視点を膨らませていくために、言語活動との関連を図った指導の在り方を探る。
- 指導する教師自らが、「思い、触れ、つくる」体験は、重要である。今後もワークショップや実技講習を入れた研修を継続していく。
- 学年に応じた表現を大事にすることを視点に、実践交流のもち方を工夫していく。

